



# 一中だより

11月号  
平成30年11月2日  
小平市立小平第一中学校

## ■いじめと向き合う

校長 栗林 昭彦

昨年度の全国の学校でのいじめの発生件数が前年度から9万件以上増加した、というニュースがありました。これについては、単純に発生件数が増加したのではなく、これまで見過ごされていたいじめが認知されるようになったからではないかとい



う解説がありました。確かに現在どの学校でも、これまで以上にいじめについて丁寧に見ていくようになってきています。

今回の調査で「いじめの発生ゼロ」とした学校が全国で9千校あまりあります。残念ながらその中に本校は入っていません。昨年、何件か「いじめであろう」と認知できる事案がありました。これらについては、いじめられた生徒から話を聞いて直ちに対策をとると共に、いじめた側とされた生徒達にも厳しく指導をし、解決を見えています。

中学生の中には、いざこざはたくさんあります。それらをうまく乗り越えていくことは一人一人の成長にとって欠くことのできないものだと思います。一切トラブルがない純粹培養の中で育った子どもには、様々な危機を乗り越える知恵も力もつかないものです。しかし、そこに暴力が介在したり、継続的であったり、一対多というようなものであったら、それは絶対に見過ごしてはいけないものです。「ゼロ」の報告をできなかったことは残念なことである反面、「見過ごさない」という点ではよかったことだと思っています。

先日3年生は東村山市の全生園を訪問し、ハンセン病による差別を受けてきた人たちについて学びました。大切なのは、「差別される側」について想像する力をつけることです。私たちは、ただ「いじめはいけない」と言うのではなく、「いじめられる側」に思いをいたすような、そういう力を身に付けさせたいと思っています。

